

入学案内

一九八〇年度入学希望者に対するお知らせ

一、入学資格は新生の経験と献身の召命を持ち、大学卒業、聖書学校卒業の男女で、牧師の推薦するもの

二、入学願書締切は三月一五日、試験は三月十七日、十九日です。

編集後記

クリスマスの際を迎え、その準備にどの教会も忙がしとされています。いつも信徒聖書学校、神学校のため、祈り続けて下さりありがとうございます。

クリスマスの時を迎え、その準備にどの教会も忙がしとされています。いつも信徒聖書学校、神学校のため、祈り続けて下さりありがとうございます。主の恵みのうちに、働きの第三号をお届けしようとしていますが、今回は信徒聖書学校卒業生や講義を持って下さる先生方に記事を書いていただきました。新年度はさらにも多くの献身者が教会から起されたいと思います。ぜひの生徒がみことばの訓練を受けられること願っております。また続けて神学校、聖書学校のためにお祈り下さい。

さを持つています。それも底辺の広さがまた深遠なわざを支えるものです。私が神学生の頃、東京のある小さな教会でギリシャ語の先生を探しているのが折って欲しいと頼まれたことがあります。神学生のアルバイトとして週二時間、一時間三千円の謝礼をするというのです。結局私が引き受ける事になったのですが、行ってみると本当に十人前後の教会員でしかも、姉妹達が非常に熱心に学んでいます。三人の内一人は牧師夫人になりました。

第二期の課目と教授

十月より後学期が始まっています。弁証論(二)、東洋思想、組織神学(連天、東正)、ヘブル語(喜友名朝英)、新約研究(松田善弘)、聖書解釈学(真壁朝貞)、新約釈義(国吉守)

なお来年度は、精神医学、カウセンゲン、沖繩の土俗宗教等の講座を予定していますので、聴講されることをお勧めします。

対して、実に測り知れない霊的な宝庫を手に入れる事になることは信仰生活の中で経験する霊的事実である。特に原語で苦勞しながら学ぶ時、訳語では表現できない絶妙なニュアンスを知る事ができる。又、神学の基礎も原語の聖書の止に建てられていく。自らの足で立つ神学は、自ら原語で聖書を読み積まざる所にあるといえよう。そのような御言葉の役者が輩出するところに、「立場」で論じ対立が混じる状態から抜け出して、自らの確信が相手の確信を重んじる状態へ、又他人の神学の上で自らの神学を構築する状態から、たとえ貧弱でも自ら直接聖書から教えられる確信による神学へ移行する事ができるのではないだろうか。そこに「私達はすでに達している所を基準として、進むべきです」という謙遜さがあるのではないのでしょうか。

キリスト教は「言葉の宗教」といわれています。神の約束の言葉が受肉して、救い主、イエス・キリストとしてこの世で救いの御業を成しとげられました。この「命の言葉」を学び、伝えんとする多くの献身者がおこされることを切望します。御言葉の学びは、生涯をかけてせねばならぬ程の広大無辺



信徒伝道者

前沖繩信徒聖書学校校長 折田政博

「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名として、どのような名も、人間に与えられていないからです。彼らはペテロとヨハネの大担さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いた。」使徒行伝四の12、13。第一に、ペテロ自身は、世界をキリストに導く責任の明確な理解に立っていたこと。キリスト者の最大最高の責任は、人々をしてキリストとの出会いと福音理解に立つ様に努めることである。聖書学校設立の意義も明らか。学生、これから学ぼうとする兄弟、教授陣も絶対に忘れてはならないことではないだろうか。

第二に、ペテロとヨハネは、大胆無学、普通の人であった。この大胆さは、ペンテコステの日に下った聖霊によるもので、神の大きなみわざを語るのを聞いた人々は、酒の力を借りていないのではないか

沖繩県那覇市久米町 2の11 (〒900) 事務局 聖書学校 (電) 09893 (7) 8988 神学校 (電) 0988 (86) 2020

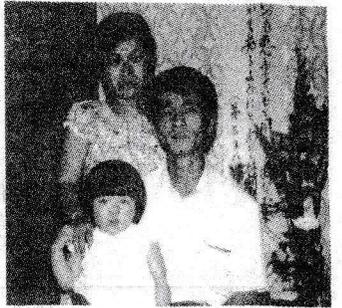
はたらき人

沖繩信徒聖書学校 沖繩聖書神学校

私にとって聖書学校とは

一期生 桃原俊幸

聖書学校で、かつて私が学んでいた当時のことを思うと、万感胸に迫るものがあります。沖繩で初めて信徒のための聖書学校が開校されたとき、正直言って、あまり関心を持ちませんでした。恩師の国吉先生の強い勧めがあった、しぶしぶ学校の門をくぐったような状態でした。ですから、授業態度は良い筈がなく、ずいぶん迷惑をかけたんじゃないかと思えます。しかし、だんだん聖書に対する目が開かれ、聖書の広さ、深さを教



★(一頁より)

えられ、又、聖書全般に関する知識を与えられていくうちに、講師の牧師先生方に対して、ひそかに尊敬の念を抱くようになってきました。それでも、自分のような者は間違っても、牧師になることはなからうと、当然のように思っていました。学校を卒業したら、将来は会計士になるつもりで、参考書等を買って準備していたのです。ところがある日、ライフセンターで本を捜していると、聖書学校のプリンスル先生がやって来て、いきなり聖書を差し出し、私に、読めとおっしゃるのです。エレミヤ書二九章11、13節の箇所でした。突然のことでしたが、目を注ぐと、そのとき力強い神の言葉が、私に臨んだのです。不思議な平安に満たされました。その瞬間から、献身

への思いが、私をとらえ、一八〇度の方向転換を余儀なくされたのです。現在、牧師としての働きは、身に余る光栄だと思えます。私にとって聖書学校とは、まさに人生の大変換をもたらした神の訓練所だったと今でも思っています。(名護バプテスト伝道所牧師)

信徒聖書学校の学び

一期生 藤村 幸貴

信徒聖書学校での二ヶ年の学びが、私のキリスト者人生にとって最も重大な意義のあることを確信しています。入学の面接をすっかり忘れて、後日理事長先生に改めて面接試験を受けたとよりない自分を今も思い出すとひとりで苦笑いしたりします。日々の会社勤務、教会生活学校での学び、新設校ですのて三回も変わった校舎移転、そのような戦いのうちに無事に卒業出来たことは、神の導きであることとを思い御多忙の先生方の御配慮深い愛のわざを忘れることができません。此のような備えをなして下さった主の聖名とご栄光を心からさんびいたすものです。

最後に母校で学ぶキリスト者が益々導かれまよう心からお祈り申し上げます。アーメン。(首里福音教会々員)

神よ わたしに慰められることよりも慰めることを

理解されることよりも理解することを愛されることよりも愛することを望ませて下さい

自分を与えることによって与えられ

ゆるされ

人のために死ぬることによって永遠に活きる事ができるからです(聖フランシスの祈り)

沖繩信徒聖書学校生徒募集

- ▼募集人員 二〇人
 - ▼願書〆切 一九八〇年三月七日
 - ▼入学試験 三月十日
 - ▼入学資格 新生の明確な自覚をもち、受洗後一年以上上忠実な教会生活を送っている者
- 将来信徒伝道者として、キリストと教会に仕えたいと願う者は、ぜひ本校に入学して下さい。

沖繩聖書神学校が昨年四月開校してから一年半が経過しました。その間の神の恵みと導きに深く感謝するものであります。

入学生一人という全く小さなからし種のようなスタートでありましたが、それでも専任教授の運天康正牧師をはじめ、アレン宣教師、喜友名みどり宣教師などその他多くの教授、講師の先生方が喜んで奉仕下さり、今後とも奉仕を継続されようとしております。一人の神学生のために教師たちのこれ程の労力は果して効果的であるかどうか、いろいろ疑問に思う事もあると思いますが、ある意味では当然のことと思います。

しかし、一方私共は聖書が常に拠って立っている基盤はこの世の数学や経済学ではないということも覚えなければなりません。九九匹を置いて一匹の羊を何処までも追求める主、労働時間の長短によらず約束通りに賃金を支払われ、主、三百デナリの高価な香油を惜し気もなく捧げたマリヤを受け入れられる主等に、聖書にはこの世の経済学では考えられない不合理なことが大担に語られているのです。勿論、私共はいつまでも一人の学生でいいというのではありません。多くの神学生が与えら

神学校の感謝と展望

理事長 国 吉 守

れることを望んでいます。しかし一人一人に対しても神学校のカリキュラム、逆りこの神学校の神学教育に対する姿勢の現われでもあります。神学校にとって今は創設時代で生みの苦しみの時代であります。この時にこそ、教授たちのより一層の協力と聖霊の一致が必要で、来年度はうちの教会にも、神学校に入學したい人がいるとの声も聞えています。それが実現するよう祈らなければなりません。当神学校は超教派の神学校ですのて、それぞれの教派の神学は選択科目で履修できるように

計画されております。すばらしい神の導きではありませんか。

計画されております。すばらしい神の導きではありませんか。献身者よ起きよ!! 神学教育は単発的な発想や計画でできるものではなく、そのためには何と言っても長期的展望に立たなければならぬと思えます。一人ですべてではなく、一教派ですべてではなく各教派のすべてのクリスチャンの協力と祈りによって長期計画を立てられその実現が可能となるのです。この地に神学校が創設されたということは将来の沖繩伝道に大きな光を与えるもので、この神の恵みと導きに私共も全力を尽して答えて行く者でありたいと思えます。

神は若き日に造り主を覚えたい青年たちが、更に進んで自らを主の御用のために献身されることを待つておられます。神はイザヤの口を通して「わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」(四三・七)と語っておられます。私共は皆神の

へブル語の学び

喜友名 朝 英



沖繩聖書神学校で聖書へブル語を二学年前期と後期を担当する事になった。直接伝道教会の最前線に戦っている者にとって、時間のかかる語学を担当することは、私わなければならない犠牲の事を考えると尻込みをせざるを得ないものがある。しかし、自ら御言葉に

*(四頁につづく)